

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病虫害発生予察情報について

令和4年度農作物病虫害発生予報第15号を発表したので送付します。

令和4年度農作物病虫害発生予報第15号

令和5年3月6日
徳島県

I. 果樹
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 昨年の予察灯誘殺数は, 勝浦町では, ツヤアオカメムシは平年に比べて少なく推移した。チャバネアオカメムシは6月から8月にかけて, 平年に比べて多く誘殺されたが, 10月以降は平年よりやや少なく推移した。

また, 上板町では, ツヤアオカメムシは平年に比べてやや少なく推移した。チャバネアオカメムシは4月から7月にかけて, 平年に比べて多く誘殺されたが, 9月以降は平年に比べてやや少なく推移した(表1)。

表1 勝浦町及び上板町における各種カメムシの予察灯への誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	勝浦町			上板町			月	勝浦町			上板町		
	2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
4	8	0	15	167	6	16	4	24	0	9	253	3	5
5	14	71	426	453	220	214	5	68	67	180	534	82	66
6	20	56	670	184	80	104	6	560	14	107	710	45	63
7	145	51	398	182	145	88	7	2827	42	287	4126	100	340
8	35	442	1278	68	229	124	8	1921	411	1009	500	1428	333
9	108	170	806	141	1223	231	9	785	1147	1044	113	2569	381
10	35	275	796	47	1401	266	10	79	1033	521	20	602	81
11	7	31	53	2	94	20	11	1	1	1	3	1	0

(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では, 6地点で越冬を確認した。越冬成虫数は0.6頭/m²であり, 平年(2.6頭/m²)に比べてやや低い越冬密度で, 前年(成虫確認地点数は8地点, 越冬成虫数は2.0頭/m²)に比べてやや低い越冬密度であった。

(3) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が16.0%, 発病度が0.8)。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多湿環境は発病を著しく助長するので, 施設内が過湿にならないよう十分に換気を行う。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので, できるだけ早く除去し, 施設外で処分する。
- (3) 病原菌は気孔から侵入するので, 薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に, 下葉には丁寧に散布する。
- (4) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので, 肥培管理に注意する。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が10.9%, 発病葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等, 十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので, できるだけ早く除去し, 施設外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が12.5%, 発病度が0.6と, 平年(0.0%, 0.0)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等, 十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので, できるだけ早く除去し, 施設外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので, 薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)(11月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が75.0%, 寄生葉率が8.3%と, 平年(47.8%, 3.7%)に比

べて高い。

(2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%と、平年(11.7%)に比べてやや高いが、発病果率は0.2%と、平年(0.2%)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2)発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では発生圃場率が33.3%と、平年(7.6%)に比べて高いが、発病葉率は0.3%と、平年(0.2%)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (2)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(52.6%)並の発生であるが、発病葉率は2.7%と、平年(6.7%)に比べてやや低い。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

- (2)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、寄生葉率が0.2%と、平年(1.4%, 0.0%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が36.7%、寄生葉率が4.3%)。なお、被害果実も認めていない(平年同時期は被害果率が0.9%)。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%、寄生葉率が28.2%と、平年(38.8%, 4.1%)に比べて高い。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。また
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%と、平年(6.0%)に比べてやや高いが、寄生葉率は0.3%と、平年(0.4%)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か

少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、発病葉率が6.8%と、平年(38.9%, 9.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (4) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病葉率が0.1%と、平年(57.8%, 6.6%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病葉率が0.2%と、平年(48.9%, 7.2%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が8.9%, 発病果率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等, 十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので, できるだけ早く除去し, 施設外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が8.9%, 寄生葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が27.8%, 寄生葉率が2.8%, 被害果率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (2) 花器, 新葉, 葉裏, 葉の重なった部分などに集まる習性があるので, それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が12.2%, 寄生葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。また
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報の内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(6.9%)に比べてやや高いが、発病度は0.1と、平年(0.5)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2)平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと多発しやすい。多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬剤は予防的に、下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3)病原菌は被害株に付着越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するため、薬剤を予防的に散布する。
- (4)罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので、速やかに処分する。
- (5)葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、1株当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(36.4%、0.1頭)に比べてやや低い。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が5.1%、発病果率が0.2%)。
- (2)高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2)発病果は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.1%と、平年(2.9%)に比べてやや高いが、発病葉率は0.1%と、平年(0.1%)並の発生である。なお、発病果実は認めていない(平年同時期は発病果率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.7%と、平年(25.9%)に比べて低い、寄生株率は5.5%と、平年(3.6%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、寄生葉率が0.3%と、平年(65.2%、13.6%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬及び3月第1半旬の巡回調査では、発生圃場率が35.7%と、平年(15.6%)に比べて高く、寄生花率は1.2%と、平年(0.7%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が3月2日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分

- かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

Ⅲ. その他

1. 施設栽培において暖房機の最低気温の設定値を下げ過ぎると、低温性病害の発生を著しく助長する恐れがあるので、注意する。
2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。